

# 神戸大学交響楽団

## '87 Summer Concert

1987.7.4.(土) 6:30P.M. 開演

神戸文化ホール大ホール



後援：兵庫県  
兵庫県オーケストラ協議会  
神戸市民文化振興財団  
神戸新聞社



# プログラム

交響詩「禿山の一夜」

M. ムソルグスキー

(R=コルサコフ編)

指揮 渡部 一郎

組曲「十字軍の兵士 シゲール」

E. グリーグ

指揮 円光寺雅彦

—— 休 憩 ——

交響曲 第4番 変ホ長調  
「ロマンティック」

A. ブルックナー

指揮 円光寺雅彦

(第二稿 1878/80 L=ノヴァークによる校訂版)



## ご挨拶

神戸大学経営学部教授 谷 武 幸

本日はお忙しいなかをご来場いただきありがとうございます。円光寺雅彦氏を客演指揮者に迎えて、恒例のサマー・コンサートを開く運びとなりました。

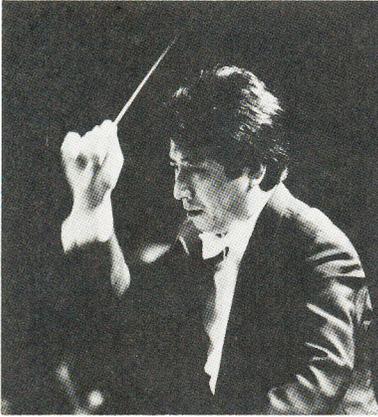
本年はムソルグスキーの交響詩「はげ山の一夜」、グリーグの「十字軍の兵士シゲール」、ブルックナーの交響曲第4番「ロマンティック」の3曲に取り組みました。若いエネルギーで練習を積み重ねてまいりましたが、何分にも学生オーケストラですので、神戸大学交響楽団の顧問として、皆様のなご一層の暖かいご支援をお願い致します。

神戸大学響友会会長 千 葉 修 二

戦後の神大オーケストラの歴史は、昭和25年に我々音楽を愛する4人の同志（石原、岡島、円満字、千葉）によって始まりました。楽譜も満足に無く、スコアまで手書きの状態でしたが、我々の情熱をはばむものは何もありませんでした。公開演奏の初演曲目は、『玩具交響曲』……この程度の曲でも、はたして満足な音が出ていたかどうか、今にして思えば誠に心もとない出発でした。なんとかベートーベンを！との願いを達することすら、月世界に行くことと同じぐらい、夢のまた夢でした。

それから38年たった今夜、ブルックナーの大曲を演奏するまでに成長したことが、信じられない気持ちです。『ロマンチック』は、今年は当たり年のようで、海外からのオーケストラで既に3度も演奏されています。神大オケがどんな音楽を聴かせてくれるか、大変楽しみにしています。予想で物を言うてはいけなと思います。テクニクはともかくとして、恐らく37年前と変わらない情熱のほとばしりを感じさせてくれることは間違いないと期待しています。ご来場の皆様方も共感をもって、この演奏をお聴き頂ければ、誠に幸いです。

(昭和28年旧制卒・指揮者)



指揮者 円光寺 雅彦

1954年東京生まれ。3才よりピアノを始め、小学校6年生の時、桐朋学園子供のための音楽教室ピアノ科に入室、13才の頃より指揮を斉藤秀雄に師事。桐朋学園高校を経て、桐朋学園大学指揮科に進学、在学中は指揮を斉藤秀雄、ピアノを井口愛子、作曲理論を戸田邦雄、平吉毅州、コントラバスを堤俊作の各氏に師事。同大学を優秀な成績で卒業した後、ウィーン国立音楽大学に留学し、オットマール・スイトナー氏に師事。1981年、東京フィルハーモニー交響楽団のオーディションに合格し、同団副指揮者に就任。在任中はアルベルト・エレーデ、カルロ・デッキなど世界の巨匠の副指揮を務める。同年12月、同楽団を指揮し、デビューを飾る。以後、東京フィルハーモニー交響楽団をはじめ、大阪フィルハーモニー交響楽団、読売日本交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京都交響楽団、新星日本交響楽団、京都市交響楽団、札幌交響楽団など、数多くのオーケストラを指揮。又、昨年6月には、モーツァルト劇場公演「劇場支配人」でオペラ指揮者としても、好評を博した他、TV、FM放送への出演等、着実に活動範囲を広め、将来を嘱望されている新進気鋭の指揮者である。

現在、東京フィルハーモニー交響楽団専属指揮者、日本指揮者協会会員、相愛大学講師。

トレーナーの先生方

稲庭 達 (大阪フィル・コンサートマスター)

宮村 聡 (京都市交響楽団・首席トランペット奏者)

城石 賢明 (大阪フィル・首席オーボエ奏者)

以上の先生方に御指導いただきました。この場をかりて御礼申し上げます。

学生指揮 渡部 一郎

◎妖怪「ワタナベ」の巻

この妖怪は学生会館（オケの練習場）に住みついて、「学館のヌシ」と呼ばれ恐れられている。「シキボウ」という魔法の棒を持っており、これによってオケの団員を意のままにあやつり、曲を仕上げていくという魔力を持っている。最近この妖怪が「Tuttiで一人弾きさせるぞ〜」という呪いの言葉を吐いて、1・2回生の女の子たちにちょっかいを出しているらしいが軽くあしらわれているということだ。さて、近頃この妖怪はブルックナーという妖怪と敵対関係で、しかもシゲールが妖怪退治に遠征してきたそうだ。そこで彼は、自分自身の力を示すためにも強力な助っ人をロシアの「はげ山」から呼んできた。「妖怪界のホーナー」と呼ばれるこのはげ山の妖怪はとても凶悪で、練習中にしばしば暴れ回って団員を恐怖のどん底につき落としたのである。今夜はこの「はげ山の妖怪」を彼がその「シキボウ」によってどのようにあやつることができるかをぜひお聴き下さい！

コンサートマスター 柴川 斉子

柴川斉子さんの一人言——。

「ほんとにコンマスって大変なのよねー。みんな好き勝手な音程で弾いてくれちゃって。そのたびに私はその震源地の方に鋭い視線を送らなくちゃならないのよ。もう、ひんがら目になっちゃうワ。まったく、このかわいい顔が台なしよ。おまけにみんな楽譜にこびりついてるからテンポもバラバラじゃないの！せっかく私がコンマスとして『優雅に、けだかく、美しく』をモットーとしているのに、他のみんなが、ガーガービービーとすべてをうちくずしてくれるのよ。でもみんなわかってるわね。今宵こそは、みんな私の忠実な奴隷になるのよ。そして私のようにモリモリと弾いてちょーだい。さもないと、さもないとまた弦セクで一人弾きをやらせるわよ!!」

と、いうふうな苦勞のたえない日々を送ってこられた斉子嬢に盛大な拍手を!!